



## 慶徳稲荷神社の田植神事

慶徳町豊岡の稲荷神社に伝えられる田植まつりは、明応年中（一四九〇）に地頭平田石見守が神田を寄付し、供物をそなえ、その年の吉凶をうらなひ、また田植え歌を歌いながら神田に田植えをし、まつりをしたのが始めとされている。その後、一時中断していたが、天保五年（一八三四）に再興したといわれている。

現在使用している用具や田植え歌は、天保五年の再興のもので、田植え歌を作曲したのは、会津藩の雅楽頭であった浦上秋琴うらかみあきこである。

まつりは、七月二日前後の半夏生におこなわれ、渡御祭、神輿渡御、御田植、還御の祭の順で進められる。

このまつりは、会津高田町伊須美神社でおこなわれるものと並んで、田植え神事の分布上、日本の北限であり、重要な風俗習慣である。

所在地 慶徳町豊岡字香隈山 慶徳稲荷神社

指定年月日 昭和六十三年三月二十二日